

事業者排出量削減報告書

| | | | | | | | | | | |
|---------------------------|--|--|--------------------------------------|----------------------|---------------------------------|-------------|---------|----------------|-------|---|
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） | 〒625-8501 京都府 舞鶴市 字 余部下1180番地 | | | | | | | | | |
| 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） | ユニバーサル造船株式会社 舞鶴事業所 事業所長 小松 康夫 | | | | | | | | | |
| 事業者の主たる業種 | 鋼船造修業 | | | | | | | | | |
| 該当する事業者要件 | <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上）） | | | | | | | | | |
| 計画期間 | 20年 4月 ～ 23年 3月 | | | | | | | | | |
| 基本方針 | エネルギー使用の合理化策推進、省エネ機器の導入、省資源及び廃棄物削減・分別回収の推進、公害防止対策の推進を地球環境保全の認識と環境負荷低減をISO-14001の継続的推進と共に原単位比2%削減を目指す。 | | | | | | | | | |
| 推進体制 | 事業所長の環境理念/方針にISO-14001推進体制をベースに年2回のシステム委員会にて進捗を確認、報告する。 | | | | | | | | | |
| | 環境マネジメントシステム名称 | ISO14001:2004, JIS Q | | | | | | | | |
| | 適用範囲 | 事業所敷地全域 | | | | | | | | |
| | 取得年月日 | 1998/3/27 | | | | | | | | |
| 年度ごとの具体的な取組及び措置の状況 | 年度 | 設備、対象、工程等 | 措置内容 | | | | | | | |
| | 20～22 | 事業所全部門 | エネルギー使用合理化によるCO2発生量の削減（原単位比較2%） | | | | | | | |
| | 20～22 | 事業所全部門 | ガスの効率的使用とガス管等定期確認/漏れ防止対策の実施（原単位比較2%） | | | | | | | |
| | 20～22 | 事業所全部門 | 省エネルギー機器の効率的運用と見直し配備 | | | | | | | |
| 温室効果ガスの排出量等 | 排出区分 | 基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算） | 目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （計画） | 報告年度（実績） （22）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （実績） | | | | |
| | A 事業所等排出区分 | 12,237.5 t | 11,992.0 t | -2.0 % | 10,224.8 t | -16.4 % | | | | |
| | B 輸送車両排出区分 | t | t | % | t | % | | | | |
| | C その他排出区分 | t | t | % | t | % | | | | |
| | 排出合計 | *1 12,237.5 t | *2 11,992.0 t | -2.0 % | *4 10,224.8 t | -16.4 % | | | | |
| | 実績に対する自己評価 | 積極的な省エネルギータイプの機器導入、エアコン導入及び塗装工場/従業員ハウスのボイラー廃止から省エネルギータイプのエアコン導入等を図って来た。今後も設備投資の機会があれば省エネルギーを第一に計画して行く。 | | | | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 用途区分 | 原単位の指標 | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | 報告年度（実績） | 増減率（実績） | | | |
| | 舞鶴事業所 | 二酸化炭素換算 総労働時間数 | 4.060 kg/h | 3.980 kg/h | -2.0 % | 3.669 kg/h | -9.6 % | | | |
| | | 二酸化炭素換算 | | | % | | % | | | |
| | | 二酸化炭素換算 | | | % | | % | | | |
| | 実績に対する自己評価 | 積極的な省エネルギータイプの機器導入、エアコン導入及び塗装工場/従業員ハウスのボイラー廃止から省エネルギータイプのエアコン導入等を図って来た。今後も設備投資の機会があれば省エネルギーを第一に計画して行く。 | | | | | | | | |
| その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等 | 対策等の区分 | 目標年度（計画） | | | 報告年度（実績） | | | | | |
| | | 取組量等 | （二酸化炭素換算） | | 取組量等 | （二酸化炭素換算） | | | | |
| | | 森林の保全及び整備 | （整備面積） | ha | （吸収量） | t | （整備面積） | ha | （吸収量） | t |
| | | 府内産の木材の利用 | （利用量） | m ³ | （削減量） | t | （利用量） | m ³ | （削減量） | t |
| | | 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給 | （売電量） | kwh | （削減量） | t | （売電量） | kwh | （削減量） | t |
| | | グリーン電力の購入 | （熱供給量） | GJ | （削減量） | t | （熱供給量） | GJ | （削減量） | t |
| | | 家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入 | （購入量） | kwh | （削減量） | t | （購入量） | kwh | （削減量） | t |
| | | 削減量等合計 | （購入量） | t | （削減量） | t | （購入量） | t | （削減量） | t |
| 差引排出量 （排出合計－削減等合計） | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | 報告年度（実績） | 増減率（実績） | | | | | |
| | *1 12,237.5 t | (*2)-(*3) 11,992.0 t | -2.0 % | (*4)-(*5) 10,224.8 t | -16.4 % | | | | | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | | | | | | | | | | |
| 特記事項 | ISO14001認証を事業所の他会社と共同で取得している関係上、21年度実績報告まではISO認証範囲である他会社を含めて算出した排出量実績を報告していたが、今年度からは、京都府からのご指導の下、ユニバーサル造船（株）舞鶴事業所単独での排出量を算出して報告させていただく。そのため、-16%以上と大きな減少であるが、原単位においても減少しており、取り組みの成果は出ていると評価する。 | | | | | | | | | |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。